

緑樹

9月号

発行者

清川村立緑中学校

清川村煤ヶ谷 1933

Tel. 046-288-1241

ホームページアドレス

<http://www.kiyokawa-edu.jp/sch/midori-jhs/>

「しなやかに たくましく 内なる美徳を
發揮する」

校長 市川 美紀子

村を挙げてのビッグイベント青龍祭は、猛暑も吹き飛ばすほどのものであったと聞きました。初参加の職員は歴史のある村の行事に畏敬の念を感じたと言います。

子ども達は、一週間前のうろこ作りに根気よく取り組み、本番に備えました。村の伝統を大人も子どもも皆で守る。そのような経験はなかなかできるものではありません。科学の発展とともに忘れ去られつつある、不思議な世界を畏敬の念をもって感じることは、心の豊かさにも通じるものです。近い将来、彼らが村の一

青龍のうろこ付けをしました 龍は大きいでした



清川村の真夏の伝統行事「青龍祭」。今年も八月四日(日)に、ご神体の青龍作りが行われました。本校生徒も実行委員会や青少年指導員の方々のご指導の下、村の方々・参加教員、緑小学校の皆さんといっしょにうろこをつけました。龍の骨格に当たる竹の枠組みに、うろこに当たるかやを二つ折りにして、一つひとついねいに付けていきます。猛暑の中、緑小学校の体育館の中で作業でしたが、生徒たちは、毎年行っているためか、要領もわかっていて、予定よりは早く終わることができました。その後村の方々、最終的に仕上げをされて完成しました。とにかく雄龍と雌龍の大きさに圧倒されます。龍という生き物は、こういうものだろうと思わせる、目や歯、ひげの精巧さ、全身の雄大さに感動を覚えました。本祭は、八月十日(土)に執り行われました。

員として、村の活性化に一役買ってくれるものと信じています。

緑に囲まれて育った子ども達。夏休みの声を聞くこと楽しみにしていることがあります。それは、秦野市・中井町・大井町・松田町・二宮町が合同で行っている「広域連携中学生洋上研修」への参加です。

大矢村長の計らいで清川村の十人の中学生が毎年、参加させていただいています。今年七月三十一日から三日間、東海大学の望星丸で総勢九十八人の中学生が寝食を共にしました。緊急時の訓練や航海日誌の記入、ウォークラリー、船内大掃除、海洋観測等、非日常の生活を学びながらの楽しい思い出作り。特に、他校の中学生と親交を深められたことが嬉しかったです。

それぞれの夏休み、悲喜こももでもあったらうと思えますが、どんな場でも誰とも言葉や交わりを交わす時、個々の内に在る人間らしい良さ(美徳)を發揮したことでしょう。「過ぎたるは及ばざるがごとし」とは言いますが、どのような行動にも美徳が發揮されています。目指すことは、徐々にそのバランスを取ることです。感謝

第二十七回青龍祭
今年最高の気温の下、青龍
パレードに参加しました!



八月十日に、青龍祭が行われました。本校の生徒たちは、午後一時過ぎに行われた入魂式に参加し、今

年一番の猛暑の中、中心になって、村の方々・参加教員、緑小学校の皆さんと協力して、緑小学校から清川村の役場運動公園まで、パレードを行いました。

本祭では、本校の生徒会役員五名が、クライマックスの昇天の儀で点火役を務めました。今年、少雨のためにかやが乾いていたことで、あつという間に竜は燃え尽き、天に昇っていきました。青龍祭はもともと雨乞いの儀式であり、毎年この場面です雨が降っていたようですが、今年は降らずに終わりました。二十七回も続く清川村の伝統行事を本校の生徒が引き継いで、続けていってほしいと思いました。

